

FutureArtisan

ユーザーカンファレンス2025

Event Report

2025/11/4(火)
13:00～17:35

製造業の”今”と”未来”をつなぐ

多数のご参加ありがとうございました！

弊社製品「YDC SONAR」のユーザー様を中心に開催している「SONAR研究会」。
第22回を迎える今回は、今年1月に社名が変更になったことを踏まえ、
“会社一丸となってユーザー様に貢献できる場を提供したい”との思いから、
「フューチャーアーティザン ユーザーカンファレンス2025」として開催いたしました。

参加者数 **92名** / **57社**

6年振りのリアル開催！

東京コンベンションホールにて開催いたしました。当日は天候にも恵まれ、首都圏にとどまらず全国各地から製造業のお客様を中心に、100名近くの方にご参加いただきました。皆様のご要望にお応えし、6年ぶりとなるリアルでの開催とし、DXの実現に向けた悩みや課題を参加者同士で共有し情報交換いただけるよう、さまざまなテーマのコンテンツをご用意いたしました。オンラインでは難しい、積極的な議論や情報交換が行われていました。

<当日の様子>



CONTENTS

特別講演

AI/MLとうまく付き合うための情報リテラシー

京都大学大学院
情報学研究科 教授 加納 学氏



AI投資が加速し2025年には生成AIへの投資が300～400億ドルに達する見込みである一方で、十分な効果を得ている企業が約5%に留まる現状を踏まえ、AIを活用する側の心構えの重要性についてご講演頂きました。ディープラーニングが製造業で活用の幅を広げている現状に触れつつ、生成AIのハルシネーション問題やフェイクコンテンツ生成といった活用リスクがある一方で、重要なデータ生成への活用可能性についても解説いただきました。特に、時系列データの多い製造現場で活用できるTransformerを用いた時系列予測モデルや、ゼロショットでも活用可能な時系列基盤モデルの研究事例を元にご紹介頂きました。そして、人がAIとうまく共創していくための情報リテラシーのあり方について深く掘り下げて頂き、AI時代を生き抜くために重要な視点をご提供頂きました。

基調講演

「未来予測2040」 ～DXとGXの向こう側にある製造業の未来～

株式会社アクアビット
代表取締役 チーフ・ビジネスプロデューサー 田中 栄 氏



2040年に向けたメガトレンドである「DX:クラウドロニクス」と「GX:サステナビリティ」についてご講演頂きました。クラウドロニクスとは、クラウドを中心に「頭脳を司る人工知能」「手足を司るロボット」「目口耳や神経を司るIoT」が融合した概念で、将来的に人のタスクを代替する存在と位置付けられています。人工知能はAGI(汎用人工知能)、ASI(人工超頭脳)へと進化し、ロボットは人型の実用化開発が進んでいる現状についてご紹介されました。一方サステナビリティでは、目的が環境対策からエネルギーの安定確保による事業継続性の強化へと変化し、再生可能エネルギーのコスト低下やESG対応の法制化により、企業の取り組みが必須になっている状況が示されました。そしてDX、GXそれぞれの視点から、製造業を含めた将来の社会の姿についてご紹介頂きました。

事例紹介

工程設計と生産計画、2つの匠の技を解き明かす (本田技研工業株式会社様事例)

フューチャーアーティザン株式会社
スマートファクトリービジネスユニット チームリーダー 川口 勇一



本田技研工業株式会社は、国内唯一の二輪車製造拠点として、これまで累計5億台のバイクを生産されてきました。その礎となったのは「人の技」であり、進化・継承されつつ二輪製造の強さを支え続けています。しかし現場では、変化の激しい時代において技術者の頭の中と紙情報による現場力の強さが今後も通用するのか、どのように次世代に継承していくのかという強い危機感も覚えられていました。そして「このままではいけない」という強い想いから、最も属人化が進む工程設計と生産計画業務に対し、弊社と共に変革への挑戦に着手。業務と判断ロジックを紐解き、その根拠を実データで裏付けしながら課題整理と施策立案を進めていきました。単なるツール導入ではなく、業務改革による効率化を実現するDXの取り組みの実態をご紹介させて頂きました。

製造業DXの共通ステップとPLMの重要性

株式会社SUMCO	長田 達弥 氏
日本ガイシ株式会社	中島 崇成 氏
フューチャーアーティザン株式会社	田中 剛
フューチャーアーティザン株式会社	團野 晃
フューチャーアーティザン株式会社	佐藤 弘司



製造業において、設計・製造・品質データの分断は、迅速な意思決定を阻む大きな壁となっていました。本パネルディスカッションでは、この「データのサイロ化」打破をに向け、熱のこもった議論が展開されました。

前半では日本ガイシ株式会社様と株式会社SUMCO様によるDXの取り組みをご紹介いただき、現場データの精緻な分析がいかにより上層部を動かし、実効性のある改革へつながったか、その軌跡も共有されました。議論の核心は、点に在るデータを「線」で結ぶPLMの重要性へと集約。設計から生産、顧客体験に至る全プロセスを統合データ基盤でつなぐことこそが、次世代の「しなやかなモノづくり」を実現し、企業の競争力を飛躍させる鍵となる、と示されました。

YDC SONAR導入～展開とデータ分析の実情

株式会社プロテリアル	赤堀 友彦 氏
JFEスチール株式会社	高木 宏征 氏
京都大学大学院	加納 学 氏
フューチャーアーティザン株式会社	吉田 隆佑



「データの分析方法がわからない」という現場の悩みは、多くの企業に共通する課題です。本パネルディスカッションでは、データ活用基盤「YDC SONAR」を駆使する株式会社プロテリアル 赤堀様やJFEスチール株式会社 高木様の事例が共有されました。赤堀様からは生産実績の可視化から始め、マニュアル整備や周囲の協力による学習時間の確保など、組織的な教育体制を構築された経験談をご紹介いただきました。高木様からは分析のポイントとして、欲しいデータが容易に取得できる環境の重要性と、「目的の明確化」と「データの把握」が不可欠であると強調されました。こうした現場起点の地道な実践こそが、「戦略的データ基盤」を築くための第一歩と感じられるセッションでした。

グループセッション

効率化の先へ、データ活用生産計画DX

策定ノウハウが難しいが故に属人化している生産計画業務の効率化を進めた事例を基に、検討STEPの進め方や実データによる判断基準の見える化を紹介しました。参加各社でも計画業務の属人化率は高く、業界固有の理由でノウハウの紐解きに苦労する実情など様々な意見が寄せられました。

製造業のデータサイエンティスト育成

データサイエンティストの育成に必要な3要素である「データ解析スキル」「ドメイン知識とデータ」「データ活用基盤」に関して、どのような取り組みを進めているかの意見交換が行われました。議論の中では、経験による習得、本人の興味を引き出す仕組み、定期的教育の実施など、率直な意見が多く挙がりました。

現場改善が導く！経営と一体のROIC改革

ROIC指標は現場指標との関係性が把握しにくく、指標改善のための現場の改善方針が立てづらいのが実情です。このため、事業別のROICに変化が発生した際、現場の状況分析ができる環境が求められます。実際、現場では「ROICまで見ていない」「改善のための投資効果試算が困難」といった様々な意見が交わされました。

埋もれたデータを価値に。攻めのEDI活用

部門ごとに点在するシステムは全社的なデータ活用を阻害するだけでなく、莫大な運用コストを発生させ事業成長の妨げとなります。データ統合基盤上でEDI/帳票/ETL/データ活用機能を提供する事例を紹介し、参加者からはシステムの分断により実際にデータ活用が進まない実情などが共有されました。

データ活用を加速させるPLM改革

製造業の各業務領域における付加価値向上のポイントとPLMが担う領域、及びビジネス特性による傾向について共有した後、意見交換が行われました。導入を検討中の参加者も多く、効果の出し方やBOM・BOPとの連携方法など、様々な課題に関する率直な意見が交わされました。

製造業におけるクラウド・AI活用のトレンド

AWSの各サービスや生成AIとの組合せによる多様な活用事例を紹介した後、参加各社の現場でのクラウドやAIの活用状況について意見交換が行われました。セキュリティ上の懸念や説明可能性の課題から未だ限定的な活用が多いものの、積極活用への関心の高さが伺えました。

顧客要求から生産までを繋ぐ受注設計DX

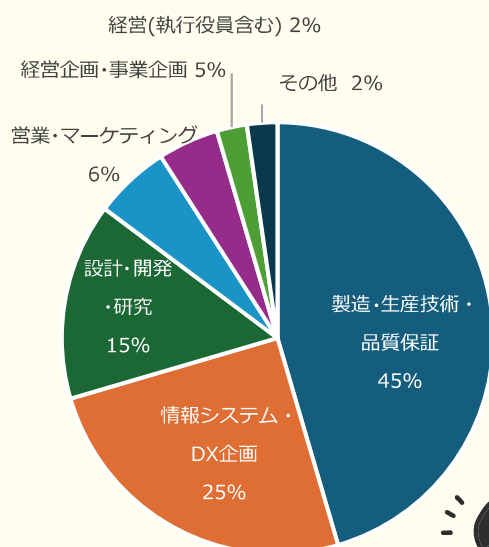
外需拡大により日本製造業の海外売上は増加しましたが、本来の強みであるカスタム対応力の仕組み化が遅れ、逆に課題となっています。参加者からもカスタム対応力を強化したい、CPQとの連携範囲を拡大したいといった意見が寄せられ、各社共通課題であることが浮き彫りになりました。

製品単位でGHG排出量を把握・可視化する方法

カーボンフットプリントの必要性和実際の実現事例をもとに参加各社の課題感が共有されました。参加者からは、顧客からの開示要求の増加、データ収集・単位の不統一による一元管理の困難さ、算定ルール・実施範囲の不明瞭さなど、現実的な課題が多数寄せられました。

VOICE

<参加者の割合>



<参加者の声>

幹事企業様のご苦労話が、私が今やっているプロジェクトの悩みと同じで共感できました。

普段と違うリアル会場の雰囲気が刺激となり有意義な時間となりました。

半日は短く感じました。せっかくの機会なのでより濃い交流ができると良いです。

今後DX推進するにあたり、概念的な考え方や実務に落とし込むためのヒントが得られました。

他社でのSONAR利用について生の声が聞くことができる大変有意義な時間を作っていただきありがとうございました。



SONAR研究会

SINCE 2008

製造業で抱えている品質関連の課題を中心に、会員相互での情報交換によって、会員の皆様の現場でのご苦労や、解決にいたる道筋の声を共有できる場として設立されました。広く製造業の抱える品質関連のテーマを中心に、日本の製造業の将来を担う会員の情報交換と相互交流において、普段の交流では享受できない貴重な機会を提供します。

お問い合わせ

後援企業 フューチャーアーティザン株式会社 ユーザーカンファレンス運営事務局

Email: seminar_info@future-artisan.co.jp 〒141-0032 東京都品川区大崎1-2-2 アートヴィレッジ大崎セントラルタワー